

神奈川県作業療法士会ニュース164号 目次

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1 巻頭言 2 WFOT横浜大会、開催に向けて 3 WFOT2014を徹底解剖します！ 5 理事会抄録 6 認知症の作業療法 後編 8 【研修報告】第4回神奈川県訪問リハビリテーション実務者研修会 9 各部からの報告 | <ul style="list-style-type: none"> 11 2012年度会員調査アンケートの報告について 12 研修会報告：「高次脳機能障害の基礎～脳画像からみる高次脳機能障害の解釈のしかた～」 13 求人広告／メディア掲載案内 14 研修会案内 15 新入会員オリエンテーション＆歓迎会 報告 16 臨時総会 報告／編集後記 |
|--|---|

巻頭言

会員としての使命感を問う

神奈川県作業療法士会 副会長 北里大学東病院 中西浩司



小学生の頃、「さらば宇宙戦艦ヤマト 愛の戦士たち」という長編アニメーション映画を観に行きました。「さらば」では長台詞で堂々と、繰り返し「愛」と「使命」の重要性が語られます。いい加減恥ずかしくなった僕（ら）はその後、当然のように「ガンダム」に代表される、リアル系ロボットアニメの方がより面白いと思い、のめり込んでいくわけです。僕らにとって「ニュータイプ」という新語から与えられた衝撃は、それは大きいものでした。したくないことをさせられている感、自覚していない使命に大きな責任を持たされている感が、世代に受けたのです。しかし、今になって「さらば」で伝えられる「愛」と「使命」の重要性に、遅ればせながら気づきます。人生において至極当たり前のことを、宇宙支配を目論みヤマトを嘲笑する大敵相手に叫ぶ主人公、古代進が、あらためて格好いいと思える歳になりました。

話は替わりますが、去る10/5、定款の変更という重要議案の決議を含む臨時総会が開かれました。当日参加者と委任状提出者を合わせた数が正会員数の2/3に届かず、大変残念なことに、定款の変更を含む第1号議案は審議できませんでした。勿論、本来自己申告せねばならない所属や連絡先の不明な会員も多数含んでしまっている現在、正会員の2/3の同意を得るのは根本的に難しいことである、という認識はありましょう。しかし、所属が明らかな会員のうちにも、参加や委任状をいただけない方がまだ多数いらっしゃるようです。

そういった会員の方々の中には、現在の県士会活動に対して、あまり興味関心がない、もしくは異を唱えたいという方もおられるかと思えます。そういった、参加も委任状もいただけない方々に対し声を大にして問いたい。本当に私たち（自身）の活動

は、OTであるご自身の活動に、それ程までに役立っていないということなののでしょうか？今回、確かに2/3の同意は得られませんでした。しかし本議案に対し、1人の反対者もないのです。

現在の県士会活動に対して、いろいろとご意見いただくことがあります。それらは確かにご指摘のとおりであったりして、改めねばならない課題はまだまだあるでしょう。しかし同時に、自らの所属する会に対して自分が責務を果たされているかどうか、振り返って欲しいのです。アニメ世代に育った私は、つい往年のヒーローに照らして物事を解釈する癖があります。私は「ガンダム」で描かれた「少年時代特有の鬱屈さ」（今でいう「厨二病」でしょうか）も嫌いだはありますが、いままさに古代進の確固たる愛情と使命感の大切さを再認識すべき時であるように思うのです。みなさんも、会員としての責務を果たしてこそ、ではありませんか？

さて、11/14に再び臨時総会を開き、再決議を行うことになりました。私たちにとって、それ程までに重要な議題であるということです。審議不可のまま終えてしまうとすれば、それは今回の総会に対して行使された、1,148名分の議決権を捨て去るということになります。1,148名を無視するOTが、目の前の患者・当事者・学生らに対して、何ができるというのでしょうか？賛成すべき、というのではありません。意見を提示すべきだ、と思うのです。11/14までに委任状の提出期間が延長されます。前回当日参加された方々、委任状をすでに出された方々のためにも、いま一度、まだ意思表示されていないみなさんの責任感、使命感を問いたいと思います。

WFOT横浜大会、開催に向けて

一般社団法人 日本作業療法士協会
会長 中村 春基



神奈川県作業療法士会の皆様におかれましては、平素より協会の用務につきまして、ご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

また、この度は、WFOT横浜大会開催において、ご当地の士会として、大変なご協力をお願いしております。開催まで後7月となり、プログラムの大枠が決まり、いよいよ、大会運営の細部の調整段階にはいっています。

その中でも、外国から参加者に対する、施設見学
の計画、レセプションの企画、具体の運営計画等々、士会員の皆様のお知恵と今まで培ってこられた経験をお借りします。どうか、宜しくお願いいたします。

開会式におきまして、日本学術会議の共催が認められましたので、現在、皇室の方のご臨席をお願いしています。実現しましたら、正に歴史にのこる学術大会となります。内閣総理大臣からのメッセージ、各国大使館の後援等々、日本国の取り組みとして取り上げられ、作業療法の認知度も一気に上がるものと期待しています。

事前登録の受付も始まりました。早期事前登録は4万円となっていますが、種々の国際大会の相場は

6万円～8万円と比較しますと、安価な設定とさせて頂きました。当日になりますと6万円になります。是非、早期事前登録をお願い致します。せっかくのわが国での大会です。一人でも多くの会員の参加をお願いします。

また、展示におきましては、日本の最先端の介護ロボット、福祉車両等々、今までにない、スケールでの開催を考えています。きっと、わが国の技術力の高さをアピールできと思っています。

最後になりましたが、73の国と地域からの参加となる本大会、その中には、年収100万程度の国の方々の参加もあります。WFOTでは、そのような国からの参加の促進をはかるための補助を行っています。つきましては、その財源として、現在、寄付を呼びかけています。目標1,000万円ですが、その約半分はそのような補助にあて、後、半分はWelcome Party等費用に充当させて頂く予定です。どうか、こちらの方も、宜しくご協力下さい。貴士会のご協力無しには、成功はありません。どうか、宜しくお願い致します。

WFOT2014を徹底解剖します！

一般社団法人神奈川県作業療法士会副会長 錠内広之

WFOT2014（第16回世界作業療法士連盟大会・第48回日本作業療法学会）開催まで、いよいよ半年を切りそうな時期になって来ました。県士会員の方はすでにご存じの通りパシフィコ横浜での開催となるため、神奈川県士会の協力が重要になってくるのは言うまでもありません。県士会の役員もTeam Japan（WFOT組織委員会）に含まれており、それぞれが準備に追われています。そこで、今回はWFOT2014を徹底的に解剖してみたいと思います。

大会日程 ★ 2014年6月17日(火)～21日(土)

会場 ★ パシフィコ横浜

Team Japanでの県士会メンバー★

☆EXECUTIVE TEAM Chair 錠内広之

☆CONFERENCE MANAGEMENT Chair 渡邊慎一 Co-Chair 錠内広之

☆SPONSORSHIP & EXHIBITION Chair 錠内広之

☆LOCAL OPERATIONS

Professional Visits Chair 澤口勇 Member 西尾香菜（新戸塚病院）、小泉香織

Welcome reception & Congress Party Chair 神保武則 Member 田中秀宜、小泉香織

*日本語訳はOT協会HPのWFOT2014リンクをご確認下さい

☆ボランティア（運営スタッフ）

神奈川県OTR 200名程度

東京・神奈川県・埼玉OTS 250名程度

*神奈川県内の組織については今後具体的に組織化していきます

全体スケジュール★

	6/17 (Tue.)	6/18 (Wed.)	6/19 (Thurs.)	6/20 (Fri.)	6/21 (Sat.)
A M		セッション・シンポジウム、機器展示、学生プログラム			
		Morning Tea (30分) 展示ホールにて			
		セッション・シンポジウム、機器展示、学生プログラム			
		昼休み (1時間)			
P M		セッション・シンポジウム、機器展示、学生プログラム			
		Afternoon Tea (30分) 展示ホールにて			
	17:00～18:00 開会式	セッション・シンポジウム、機器展示、学生プログラム			
	18:00～20:00 ウェルカムレセプション		19:30～21:30 コンGRESパーティー		16:10～ 閉会式
他		施設見学（東京・神奈川県内で毎日実施予定）			

★Opening Ceremony

開会式は6/17(火)です。国立大ホールで開催され、2,000名規模の参加が見込まれています。天皇皇后両陛下ご臨席予定であり、内閣総理大臣メッセージや基調講演が行われます。

★Welcome Reception

ウェルカムレセプションは6/17(火)です。展示ホールAで開催され、参加は無料です。世界73カ国の参加者

により2,000名規模で開催予定です。企画は神奈川県士会主体で検討され、日本の“おもてなし”が演出できるように趣向をこらしたいと考えています。

★Congress Party

コンgressパーティーは6/19(木)です。大栈橋ホールで開催され、参加費5,000円を考えています。こちらは1,000名規模の参加者を見込んでいます。パシフィコ横浜より歩くと30分程度かかりますが、景色を楽しみながら歩くのもよし、またみなとみらい線を利用すると近くまで来られます。企画はこちらも神奈川県士会が主体となります。世界から参加されるOTの仲間の皆さんに、日本の文化・芸術・歴史などが肌で感じ取れる様な交流の場を提供します。

すいませんでした。

イベントの紹介だけでなく他は？

☆WFOTって何？

そもそも「WFOTって何？」の質問には何回でも繰り返し説明しないといけません。WFOTとは『世界作業療法士連盟』の略語であり、加盟国は現在73ヶ国になります。そして加盟国による国際学会が4年に一度開催されます。前は2010年にチリで開催され、2014年に第16回目として日本、横浜で開催されます。

WFOT加盟の73ヶ国に作業療法士は約35万人存在しますが、活動内容については各国様々です。よって、世界の作業療法的支援の知見を世界の作業療法士が共有するとともに、その国での作業療法の認識を広め、国民に啓発・啓蒙する為にも重要な取り組みとなります。日本には御存じの通りOT有資格者は6万人程存在します。これはWFOT加盟73ヶ国の中でアメリカについで2番目となります。アジア地域で初めてとなるWFOT2014ということもあり、日本の果たすべき役割は非常に大きいのです。まじめに語ってしまいましたが、是非ともご理解下さい。

☆参加登録

参加登録は10月末から申込が開始され、ワークショップや施設見学は11月中には申込が開始される予定です。

☆演題発表

口頭発表や学生プログラムは会議センターが使用され、50名規模から1,000名規模まで大小様々な会議室が使用されます。演題は全部で1,024題あり、同時通訳で行われます。

☆講演など

特別講演やシンポジウムは国立大ホールやメインホールで行われ、最大で5,000名程が聴講出来ます。

☆ポスター発表

ポスター発表は展示ホールで行われます。およそ1,200題の発表が行われる予定です。

☆機器展示

機器展示は展示ホールを使用して行われます。全日市民公開となり、ここだけは無料となります。機器展示の他に出席セミナーや作業療法の啓発に関わるイベントも用意しており、一般市民や海外参加者を含めた交流の場にしていきたいと考えています。

以上、少しは全体像がつかめましたでしょうか？今後は具体的に県士会で組織を編成していくことになりますので、ご協力をよろしくお願いします。

理事会 報告

平成25年度 第3回 一般社団法人 神奈川県作業療法士会理事会 抄録

日時：平成25年9月13日（金）19:00～20:50

場所：神奈川県作業療法士会事務所

出席理事：錠内、中西、内山、木村、作田、鈴木（孝）、出口、沼田、野々垣、福留、吉本、澤口

委任理事：渡邊、奥原、鈴木（久）、鈴木（孝）、三浦、出席監事：浅井、清宮

その他：小峰（広報部ニュース班）、酒井（広報部対外班）、名古屋・金山・一志（事務局書記）

●事務局（澤口事務局長）

①渉外関連

- ・神奈川県精神障害者地域生活支援団体連合会「神奈川県精神障害者スポーツ（バレーボール）大会」
日時：10月3日（木）10:00～ 大会実行委員：川口敬之氏（北里大学医療衛生学部）大会実行委員会が9月3日（火）に行われた。
- ・神奈川県病院協会「第32回病院学会第2回学術委員会」
日時：9月4日（水）⇒欠席
- ・神奈川県病院医療関係団体連絡協議会「平成25年度神奈川県病院医療関係団体連絡協議会」
日時：9月9日（月）15:00～ 場所：英一番館
出席：錠内副会長 中西副会長
- ・ヤマシタコーポレーション 山下一平（前社長）お別れの会
日程：8月17日（土） 出席：渡邊会長
- ・神奈川県精神科病院協会創立50周年記念式典
日時：10月18日（金）場所：横浜ベイホテル東急
⇒ 出席：鈴木（久）理事に現在打診中。

②後援名義使用依頼

- ・神奈川県在宅医療推進フォーラム運営委員会「第3回神奈川県在宅医療推進フォーラム」後援依頼⇒承諾
- ・テクノエイド協会 福祉用具・介護ロボット実用化支援事業におけるモニター調査事業「募集要項」⇒理事MLにて承認済

③OT協会関連

- ・都道府県連絡協議会より周知依頼「臨床実習指導者研修（中級・上級）」⇒HP掲載済
- ・「災害リハビリテーション・コーディネーター研修会」 日時：10/19～20
⇒出席：吉本理事
- ・日本作業療法士協会・日本理学療法士協会・日本言語聴覚士協会の3協会共催「訪問リハビリテーションフォーラム2013」周知依頼
日程：9月21日（土） 場所：日本消防会館⇒HP掲載済み

④WFOT関連進捗状況について

会場と運営スタッフ人数案の報告を受ける。展示ホールはホールA、ホールBを使用。ホールC、ホールDは他団体が使用する。プラザ臨港パークは今のところ借りる予定はないが、パフォーマンスなど企画があれば早めに打診する。神奈川県士会の働きとしては、大会運営・展示・独立採算プログラム委員会内を主に担当する。具体的には各会場のディレクター業務やWelcome Reception及びCongress Partyの補助を担当か。また、10月19日に国内組織委員会があるため、参加できる理事は参加調整することが周知される。

⑤庶務関連

- ・国土交通省 法人土地建物基本調査について 法人の名称、所在地、組織形態、資本金の額、業種、常用雇用数、支所・支社・支店の数、所有する土地の有無⇒以上について回答を行った。

⑥臨時総会（10/5）について

現在委任状が567通集まっているが、まだ1000通近く足りない。各部・委員のメンバーに所属先への声掛けを依頼する。今後は20日の第1次締め切り後から電話かけの予定。
⇒締め切りをまたず連絡していくことになる。電話かけの際、所属だけでなく担当者も掲載してほしい。

⑦審議事項

- ・補正予算について：10/5 臨時総会開催に伴い、臨時総会開催に関する補正予算391,392円の請求があり承認された。

●財務部（野々垣理事）

- ・会費納入状況について

会費の納入率について、コンビニ決済だった昨年度はこの時期73.93%であったが、現在は58.03%と大きく下回っている。

また臨時総会で会員規定が見直された際、会員数の実際の読みにくいこともあり、数年は厳しい決算にならざるえない。

・口座振替手続きについて

現在、1,151名分の口座振替用紙が事務局に提出されている（1,824名）。手続きが完了していない会員には再度口座振替用紙を送付する。時期は10月の臨時総会終了後を予定している。

送付時に新しい会員規定を文書化し、同封する。引き落としに関する手続きを考慮すると年内に連絡が欲しいが、3月31日までに事務局に届いたものは考慮していきたい。今年度残り2回送付する予定。

●学部部（福留理事）

①研修会予定及び結果（詳細はnews等を参照）の報告があった。

②研究助成事業

- ・研究申請1 研究代表者：神奈川県立保健福祉大学 笹田哲氏

研究課題：神奈川県小学校特別支援学級に対する作業療法の介入方法に関する研究

- ・研究申請2 研究代表者：福井記念病院 松岡太一先生

研究課題：作業に焦点を当てた実践が長期入院統合失調症者の精神症状やQOLに及ぼす効果の検証

*申請1の研究は、研究の【新規性の項目】について再度具体的に聞き取りを行っている。平成25年度研究助成として2課題とも承認していく予定。

●教育部（奥原理事）

①前回理事会時承認されたSIG団体「作業療法総合研究所」の申請書類回覧（前回未回覧、回覧のみ）

②現職者研修について：9月28日29日に行われる。現在参加者30名。

③部員承認：大塚満沙（新戸塚病院）⇒承認

●広報部（出口理事）

①対外広報班

- ・ヨコハマヒューマンテックノランド

日程：7/26・27 場所：パシフィコ横浜

内容：体験型ブースの出展（革細工体験）、パンフレット配布

結果：革細工・パンフレット各200個以上配布

- ・新宿セミナー（予備校）

日程：7/19 午後 場所：新宿セミナー横浜校

内容：相談ブースの出展

結果：数名の相談者に看護とリハビリテーションの違い・理学療法と作業療法の違い等の説明

- ・作業療法ガイダンス（学生向けに企画） 9/11（日）

結果：参加者1名だったため個別の施設見学（旭中央総合病院）に変更し、職業紹介・学校生活の紹介を行った。事前に高校に郵送配布していたが、参加者はいなかった。今回の申込者は北里大学のオープンキャンパスでの案内によるものであった。会場費のキャンセル料が発生したこともあり、今後学生向けの企画を再検討していく。

- ・ハローヨコハマ（横浜市中区区民祭り）

日時：10/13 場所：横浜スタジアム

内容：認知機能検査体験・相談ブースの出展

- ・ウェブサイトへの県士会パンフレット・対外広報班ブログ作成

ウェブサイト委員会へ掲載を依頼する。

*紙面の都合で一部割愛・詳細は県士会Webへ（文責：澤口）

認知症の作業療法 後編

石川県立高松病院 作業療法士
村井千賀 先生

—認知症の早期診断・早期対応が大切だと言われています。村井先生のお考えをお聞かせください。

早期からの関わり＝精神行動症状(BPSD)の予防

今年から、私の勤務先では、認知症支援チームが発足しました。チームメンバーはOT、医師、看護師と心理職。認知症と診断がついた早期にチームで外来や訪問により、環境調整や対応方法、サービスなどをアドバイスすることでBPSDを予防し、在宅生活をサポートしようというものです。外来診察の際に医師の横にOTがついて、その方の作業を見極めたり、ケアマネジャーにアドバイスをしたり、本人の生活を包括的にサポートしています。

早期に関わることの一番の効果は、BPSDを起こさないことです。画像上で認知症と診断された時点ではなくて、日常生活に支障が出始めた時から関わるのが、大事なポイントです。認知症のため生活に支障がでてきたからといって、不用意に身の回りの環境を変えたり、その方の馴染みの作業を取り上げたりすると、認知症の方は混乱します。その方の能力に合わせて、生活の中に「作業」が継続できる、または取り入れられる段階を整えていきます。生活環境を早期に整えることは、BPSDの予防に繋がっています。

厚生労働省は認知症初期集中支援チームの設置を促進しており、今後、全国的にも広まりをみせるでしょう。村井先生の取り組みに倣って、OTがリーダーとして活躍できるように成長していきたいものです。

—認知症の作業療法は、何をするのがわかりにくい、と言われることがあります。村井先生は、「作業療法」を理解してもらうために、何か工夫をされていますか？



村井千賀 先生

profile

石川県の作業療法士として保健所に勤務し、あらゆる世代の地域生活支援に携わった後、リハビリテーション専門病院を経て、7年前より現職である石川県高松病院の認知症治療病棟に勤務。厚生労働省老人保健健康増進等事業の受託研究として、日本作業療法士協会が取り組んでいる人の作業・生活行為に焦点をあてた支援である「生活行為向上マネジメント」の第一人者。

作業がいかに大事か

一つは、作業の効果を明確に説明しています。例えば、せん妄の方に対しては、積極的に運動をしてもらっています。せん妄の方は意識機能の低下が低下していますから、スタンディングテーブルに立つ、一時間の運動プログラムに参加するなど体を動かすことを通して、せん妄状態の改善に働きかけています。また、薬剤の効果を高めたい場合にも運動をしてもらいます。胃中で溶かした薬を、いかにして血液を通して脳まで運ぶか。そのためには、服薬後の運動が重要です。私は昼食の30分後から、1時間程度の運動を設定しています。

これは、いわゆる環境設定ですね。OTがそのような発想で作業を設定していることを、医師に説明すると、「なるほど。だから昼過ぎに運動させるのだな、寝かさずに。」と納得します。作業療法のロジックを、周囲の方にわかるように説明しています。

もう一つは、作業の目安を示しています。例えば、認知症の方が、60分間作業に集中できるようになったら、医師に報告します。60分間作業が継続できたら、それは落ち着いていると言えますよね。家族にも実際の様子を見てもらいます。すると「うちのおばあちゃん、こんなことできるの？」と大抵驚きます。私は、「家に帰ってからも続けてください。作業ができることで本人はとても落ち着くし、満足します」と伝えます。これが家族指導です。60分間注意が維持できるのであれば、注意の転動性も問題ないでしょう。困った時のSOSの出し方については、作業を通して徹底的に教育していけばよいのです。

「作業がいかに大事か」ということを伝え続けていたら、医師もやっと、作業の大切さに気付いてくれました。今では「早く作業療法を始めてほしい」といつもOTを頼りにしてくれます。

—病院では、様々な職種と連携されていると思います。チームアプローチの中でのOTの役割について、ご意見をお聞かせください。

OTは生活障害のプロフェッショナル

医師は、病気の観点から人を見ています。私たちOTは、生活障害から人を見ていますから、その立場から、しっかりと伝えなくてはなりません。そうでないと、不用意な治療が始まってしまうことも考えられます。チーム内の信頼関係を築きあげて、OTの立場から言えることはしっかりと伝えるべきです。

その人らしさも生活の一部

その人らしさ、についてもOTが把握すべきことです。先日、家ですごく暴れているという方が受診にきました。評価を始めてみると、これは認知症の症状というよりも元々の性格では？と思い、家族に「元々はどんな人だった？」と聞いてみました。すると「昔からこうやった」と答えました。他のケースでは、おじいちゃんが妻を叩く、という相談もありました。おじいちゃんに話を聞いてみると、「20歳の頃から同じことをしているのに、今になって急に何だ」と怒っています。私は「ばあちゃんも昔より力が弱くなったから、同じことでも辛く感じるのよ」と本人に話をしました。その人たちにとっては、それも何ら変わらない習慣的な行動なのかもしれません。

もちろん、精神薬の薬剤を使うことによって、大人しく穏やかになることは可能です。しかし、それには

嚥下障害や廃用性の進行のリスクも伴います。昔からの性格や習慣などのICFの人格と気質機能を含めて、今の生活機能をOTがしっかりと捉えて、主治医やチーム、家族に伝えていきます。何から何まで病気の症状と捉えられてしまって、余計な薬まで処方されて認知症が悪化しては困りますから。

タイミングのよい評価と連携

私は、入院している認知症の方が「歩いて家に帰ること」はとても重要だと考えています。実際に当院のデータでも、歩けるようになった人ほど自宅に退院することがわかっています。入院中は、とにかく動いてもらいます。スタンディングテーブルに立てるようにになったら、トイレでの介助量を減らすことができます。平行棒内で、自力でイスから立ちあがれるようになれば、次は平行棒の中で歩く練習を始めます。平行棒内を15往復連続で歩けるようになれば、歩行車に移行します。そのタイミングで、看護師に「日中は見守りにて歩行車で歩いてください」と申し送ります。病棟で毎日歩くようになれば、足腰も徐々に強くなっていきます。「家で介護が大変だったんですよ」と話していた家族も、歩ける状態になった姿を見ると、「こんなに良くなるとは思わなかった。連れて帰ります」と気持ちが変わっていきます。

いかにタイミングよく的確な評価をして、その方の機能をきちんと残していけるように環境を整えるか。ただ、漫然と作業療法をしていたらダメですね。

—村井先生のチームは、経験を重ねながら、病院全体として動きがよくなってきたのですね。

そうですね。一番の違いは、退院する人が増えたことです。私が今の病院に異動してきた頃は、自宅退院に繋がる方は、ほとんどいませんでした。私が異動して来たら、認知症治療病棟を精神科急性期病棟に変えたのです。スタッフにとっても、在宅に繋げるという明確な目標ができますし、診療報酬が高い点は病院にとっても有益です。退院前訪問も、作業療法の訓練時間を精神科は午前午後各2時間のみという設定ができますので、それ以外の時間を在宅調整に取り組む時間もしっかり確保できています。

—チームディスカッションの場でも、国際生活機能分類（ICF）を使っていますか？

医師は最初のうちはICFを軽視していました。最近やっと、ICFを通してディスカッションできるようになりました。例えば、幻覚ひとつをとっても種類は様々です。せん妄など意識機能レベルによる幻覚、知覚異常による幻覚、知覚と思考機能の低下による幻覚など。それぞれの原因によって環境調整や対応は違ってきます。だからこそ、個別の対応が必要なのです。

OTはその違いを、ロジックを組み立てて説明することができます。「この方は、注意の分配機能が低下しています。細かいところに注意が向かないから、小さなミスや躓きをよくするのです。」と、ICFを使って説明できます。また、残存している機能を使った対応方法についても、ICFを通して考えることができます。この方は上手く服を着ることができないけれど、目に入りやすい目印をつければ、それを自分で見つけて、袖と頭を通すことができる、というようなことです。これが、一人一人に合った対応の仕方を教えるということです。

—一次に、OT間の連携についてお聞かせください。

すべてのOTが同じレベルで仕事ができる

私の勤務先にはOTが6名在籍していて、その内3名が認知症の担当者です。内1人が私で、病棟と外来を行き来して仕事をしています。方法論を確立しているので、職場のOT全員が同じレベルで仕事できています。生活行為向上プログラムを用いることで、何より質が担保できます。チームとしても、OTとしても、質の担保ができるのはとても大きなことです。

また、院内のOT連携だけでなく、認知症早期対応作業療法研修として、外部からのOT研修者も受け入れています。研修者は、外来診察時に医師の横について、ケースの評価とプログラム立案をします。どなたが研修に来て、同じレベルで仕事ができるようになります。1年に5名程度しか受け入れができないのは残念ですが、やはり認知症を捉えられるようになるには、トレーニングが必要だと思います。それは臨床の場で教えないと難しい。例えば、衝動が激しい、と感情の抑制が効かない、とは違います。その違いは、一つ一つ目で見ながらでないと、教えられない。注意の転導性が低いのではなく、意識機能が下がっているのではないか？というようなことです。今後は、もっとOT協会全体としても研修プログラムを充実させて、実践の場で理解できる人を育てていくことが必要ですね。座学には限界があります。実際にケースを目の前にして、できる力を伸ばせるような研修が必要ですね。

—近隣地域との連携についてはいかがでしょうか。

生活障害はOT、という地域の認識

地域のケマネジャーから、担当ケースについてアドバイスを欲しいとの相談があり、2か月に1回の事例検討会を始めました。最近になって医師会からも相談があり、そちらでも勉強会を始めました。「生活障害と言えば作業療法士だよな」というように、地域がよい方向に変わってきています。

その他に、医師とOTがタッグを組んで講演活動もしています。医師は「病気については自分、生活障害は村井だな」と言います。これまでの仕事で関係を構築してきたからこそ、今の形になりました。

—村井先生の今後の夢を教えてください。

そうですね。訪問リハビリテーション管理指導料を使いながら、病院というフレームを曖昧にしていきたいですね。地域と病院で互いの技術を貸し借りしながら、認知症の方が、なるべく入院しないで生活できるような環境を整えていくということ、が夢でしょうか。

—神奈川県作業療法士会の若手にメッセージをお願いいたします。

積極的に認知症に関与してください。わからないことがあれば、いつでも呼んでください。希望があれば研修をしますし、アセスメントシートもお渡しできます。アセスメントの流れや関与の仕方も教えますよ。いつでも気軽に相談してください。

—お忙しい中、貴重なお話を本当にありがとうございました。

(文責：地域リハビリテーション部 河村)

【研修報告】第4回神奈川県訪問リハビリテーション実務者研修会

日時：平成25年9月21日(土)～平成25年9月22日(日)

会場：横浜リハビリテーション専門学校

共催：一般社団法人神奈川県作業療法士協会、公益社団法人神奈川県理学療法士協会、神奈川県言語聴覚士会

プログラム：

21日(土)

- ① 訪問リハビリテーションの目的と意義
- ② 先人に聞く訪問リハビリの実際
- ③ グループワーク「生活に有効な他職種との連携について」～介護職編～

22日(日)

- ④ フィジカルアセスメント
- ⑤ 連携論
- ⑥ 地域リハビリテーション
- ⑦ 訪問リハの連携の実例



内容

本研修会は神奈川県理学療法士会および神奈川県言語聴覚士会と毎年開催しており、今年度で4回目となりました。今回のテーマは「連携」。連携、連携と言われて久しく経ちますが、今もなお医療・介護のパラダイムのように巷でその必要性が謳われているということは「連携ができていない」ことの現れだと思います。

初日のグループワークでは「生活に有効な他職種との連携について」介護支援専門員と訪問介護サービス提供責任者にご来場いただき、訪問セラピストとの連携に関する現状を報告。報告から連携を進めていくための課題を抽出し解決策を検討いたしました。

課題として多く発表されていたのは「顔の見える関係をどのように作りあげるか」「目標の共有化」です。

在宅のように他職種・他事業所が一人のケースに関わる場合、連携を円滑におこなうためには「顔の見える関係」は無いよりはあった方がいい。しかしながら「目標」はチーム全員が共有しておかなければならないことであり、併せて各職種が担う「役割」を全うすることが最大の連携であると筆者は考えます。

今回は介護職との連携に焦点を絞り研修会を企画いたしましたが、訪問リハと協働する職種は数多く存在します。各職種と丁寧に意見を交換し、お互いの理解を深められる場を提供できるよう今後も研修会を企画して行く所存です。

訪問リハに興味のある会員諸氏においては、来年度以降も研修会への参加をご検討いただけますようよろしくお願いいたします。

(文責：地域リハビリテーション部 坂内・木村)

各部からの報告

教育部

○連載！

県士会ウェブサイトから質問ができます！

「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」

「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」は、生涯教育制度関連の情報を毎号少しづつお伝えしています。

今年度初回の現職者共通研修が9月に開催されました。国家試験合格者に比べて少なめな参加者でした。開催の案内が届かない方がいたのではないかと心配しています。協会の生涯教育制度について、協会では認められる専門職、職域拡大のみならず、いまや国民の健康への寄与とっています。後輩をもつ作業療法士は情報の提供と、お薦めをお願いします。

知らない、知らされていないということほど寂しいことはありませんから。

I. 今後の研修会

1. 現職者選択研修：領域別（身体・老年期・精神・発達障害の4障害領域）の研修で、生涯教育制度の必須基礎研修で、2領域を選択受講します。一領域：90分×4コマの受講が必要です。また「この先生の話が聴きたい！」

とうコマ単位での受講も可能です。ただし本研修を修了したとは認められません。

今年度は、発達障害領域、精神障害領域を開催します。詳細は今号チラシ、県士会ウェブサイトをご覧ください。

・発達障害領域 2014年2月11日(火) ウイリング横浜
・精神障害領域 2014年2月23日(日) ウイリング横浜

2. 現職者共通研修「事例検討」と「事例報告」：2014年3月2日(日) ウイリング横浜

前号ニュースでご案内しました。県士会ウェブサイトにも掲載しています。

ぜひお申し込みと事例報告へのチャレンジを！

II. 生涯教育受講履歴登録システムに関して

すでに、協会誌や協会ホームページでも情報発信されていますが、来年以降の協会のシステム可動に向けて県士会でも教育部にてシステム登録責任者を協会に報告しテストを実施しています。まずは現職者共通研修、現職者選択研修から登録される予定です。

生涯教育制度に関して何でもご連絡ください。県士会ウェブサイトからも質問ができます。

教育部 奥原孝幸（昭和大学） 045-985-6500（代）、
kyoiku@kana-ot.jp

ウェブサイト管理委員会

○一般向けコンテンツ「作業療法を知りたい」Open!

<http://kana-ot.jp/wpc/kanakouhou/>

よこ太：あれ？ハマ子の名前がネットに出てる...

ハマ子：ん？街行く素敵な美女特集？

よこ太：違うよ。県士会サイトのウェブ管のページ。

ハマ子：あー委員の一覧でしょ。今年から委員になったのよ。

よこ太：じゃーじゃー！

ハマ子：もう古いって（怒）

よこ太：古くない！第1話から見直してて、今、種市先輩にふられちゃって...ぼくのアキちゃん！！

ハマ子：知らないって。「あまロス症候群」だわね。

よこ太：ところで、ウェブ管で何やってんの？

ハマ子：あーこないだは「作業療法を知りたい」をとりまとめたよ。

よこ太：あの一般向けのだ。とてもわかりやすいし、きれいだし！珍しくイラスト使っちゃって。

ハマ子：そうそう。去年、広報部の対外広報班が制作したパンフレットがベースになっていて、イラストや写真も使用許可をもらってウェブサイト向けに編集したってわけ。

よこ太：親戚の子に紹介したよ。リハに興味があるって言うってたから。OT選んだかなー

ハマ子：そこはもう一押しでしょ！皆さんも「作業療法」を知りたい方が身の回りにいたら、ぜひ「作業療法を知りたい」を紹介してください！！

（文責：ウェブサイト管理委員会 作田）

平成25年9月 アクセスランキング

1位 作業療法Tips & PDF 22031件
2位 講習会・研修会 18752件
3位 必見！OTのすご技・アイデア集 13186件
4位 求人情報掲載板 9151件
5位 月刊よっしーワールド 4666件

平成25年9月 県士会プログラムランキング

1位 ウェブ管的知恵袋 317件
2位 Hideki Tanaka's Blog 208件
3位 ALS支援ブログ@KAOT 207件

更新件数：46件 訪問者延べ数：20743人
Kanaからの手紙発行回数：21回 登録者：183名
Twitter (ID:kaotwebkan)：フォロアー239名

地域リハビリテーション部

○＜研修案内＞

- (1)「第1回 神奈川県訪問リハビリテーション地域リーダー研修会」12／8横浜リハビリテーション専門学校
- (2)「第3回 神奈川県訪問リハビリテーション地域リーダーミーティング」2月開催予定
- (3)「生活行為向上マネジメント講習会」2月開催予定

○《訪問リハ実施施設の掲載》

県士会ウェブサイト「地域リハの”わ・輪・和”」というコンテンツを掲載しています。<http://kana-ot.jp/wpm/cbr/>

その中に”訪問作業療法実施施設”をみなさまの協力のもと掲載いたしております。

昨年度から作業療法士の所属施設のみならず、理学療法士や言語聴覚士の所属施設も掲載するように適用範囲を拡大いたしました。

神奈川県民への有益な情報源ですので、未だ掲載していない事業所の方々には是非ともご協力をお願い申しあげます。

げます。

○《生活行為向上マネジメントの普及活動について》

「生活行為向上マネジメント」を普及するため、各施設・事業所にて説明会を実施いたします。ご希望される場合は詳細をお知らせいたしますので、必要事項を記入のうえ、下記宛にEmailにてご連絡ください。

宛先：chiikireha@kana-ot.jp

地域リハビリテーション部 木村宛

件名：「生活行為向上マネジメント説明会希望」

内容：1) 所属施設名

2) 所属施設住所

3) OT部門代表者

4) 窓口担当者

5) 連絡先TEL

6) 連絡先Email

7) 所属OTの人数

8) 希望日時（複数指定）

（文責：地域リハビリテーション部 木村）

広報部

平成25年8月25日 ラジオ日本「峰竜太のミネスタ」内の、すこやか介護というコーナーに出演してきました。対外広報としては5度目のラジオ出演になります。以前出演した際には、メインパーソナリティーを務める峰竜太さんが不在でしたが、この度ようやく共演できました。峰竜太さんはコーナーの開始直前までプレゼント用のサインに勤しんでいましたが、写真撮影の依頼に笑顔で応じてくれる気さくな方でした。

我々は今回リハビリや作業療法を知らない方に向けた、「リハビリ・作業療法について」というテーマで、リハビリ職種の紹介・作業療法士の仕事の紹介・作業療法を利用する方法についてお話ししました。また、来年6月の世界作業療法士連盟大会

の開催についても併せてお知らせしてきました。

不慣れながらもラジオ出演は継続してまいります。テーマや話の内容などについて県士会員の皆さまからのアドバイスもお待ちしております。

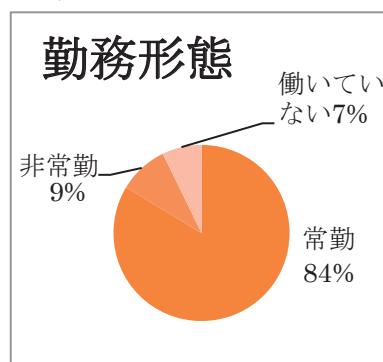
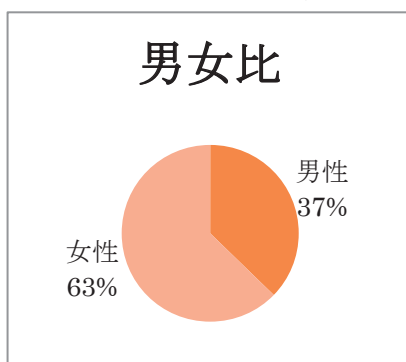
（文責：水野）



2012年度会員調査アンケートの報告について

事務局で昨年度実施しました会員調査アンケートにご協力をいただき、ありがとうございました。263人の方（3月末会員数1768人中）のご返信をいただきました。今回はその結果をご報告します。

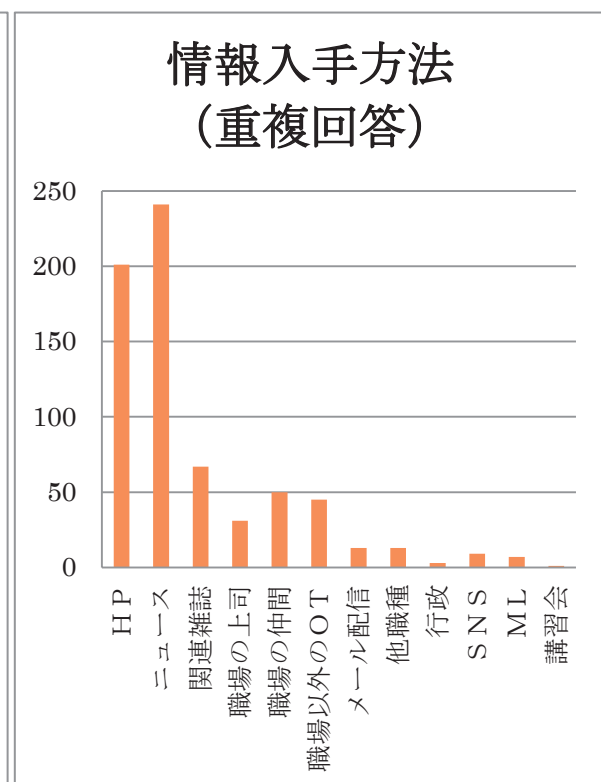
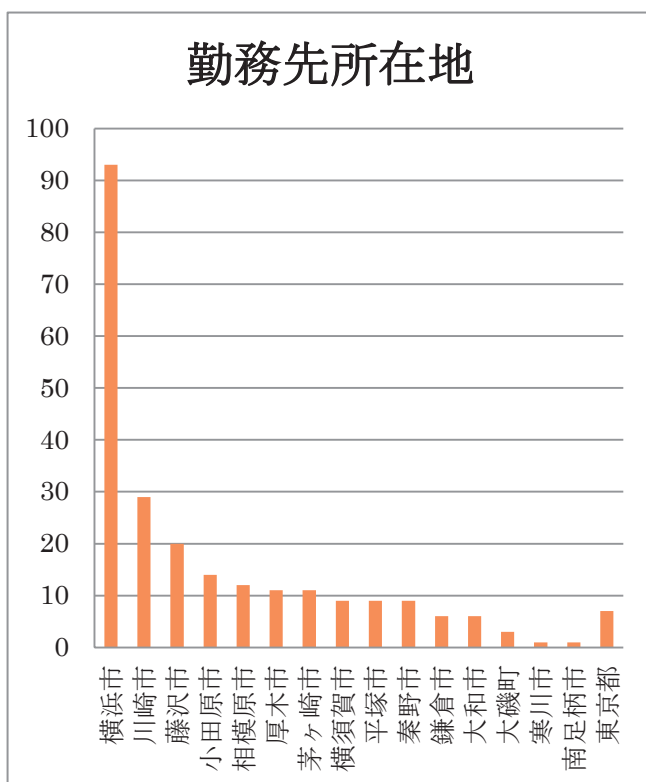
男女比は約男性：女性＝4：6、平均年齢は35歳、平均臨床年数は11年でした。多くの方は働かれています、働いていない方からも多くの声が寄せられました。女性の多い職業団体だからこそ、育児をしながらキャリアを重ねていける環境作りについても今後検討していく必要がわかりました。



勤務先については横浜市が圧倒的に多く、二番目に多い川崎市の3倍となっています。勉強会の会場についてのご要望も多くいただきましたので、情報をもとに関連部署と連携をとっていきたいと考えています。

勉強会などの情報入手方法は当会発信のものが多く、活用いただいていることがわかりました。また職場内で情報交換がなされている状況がうかがえました。今後とも当会の情報を活用いただき、職場で共有いただけますようよろしくお願いします。

（文責 金山）



研修会報告：「高次脳機能障害の基礎～脳画像からみる高次脳機能障害の解釈のしかた～」

神奈川県作業療法士会学術部主催分野別講習「高次脳機能障害の基礎～脳画像からみる高次脳機能障害の解釈のしかた～」が9月28日に行われました。講師の早川裕子先生は、横浜市立脳血管医療センターに勤務され、高次脳機能障害マエストロシリーズの執筆も手がけられています。研修会は10:30～14:45という変則的な時間に関わらず、若手作業療法士を中心に神奈川県内外から105名の参加がありました。

前半は注意障害、病識、半側空間無視について、日々の臨床から先生が感じていることを話され、後半は脳皮質の機能と脳画像の診かたについて、実際の症例を例示し進められました。

注意障害は心身の影響を非常に受けやすいので、見る・聞くなど知覚を確保するや、体力をつけることが重要であること、注意に問題がある事に気付くためにはエラーを利用する場合もあること、注意障害を良くしようと考えるより、具体的に獲得したい行動を顕在化し、目標指向的な訓練が大切であると述べていました。

病識については、不用意に自分の欠点を気付かせることは問題であることを強調されていました。「普段、性格の悪い人に、あなた性格悪いですねとは言わないでしょ？」と言われたことは、自分自身、非常に耳の痛いお話でした。

半側空間無視について、検査上は同様の無視を示しても発生機序が違う可能性がある、教科書を鵜呑みにしないで自分自身で症例を

良く見て、よく考えることが大切だと話されました。

脳皮質の機能については、様式特異性を一つのポイントとして障害をシンプルに解釈すること、また脳画像については、画像から症状を予測すること、逆に症状から損傷部位を予測することについて講義がありました。一日の研修を通して早川先生は、患者さんを普通の人としてシンプルにみることの重要性を強調されていました。また、作業は脳から発生する、OTは脳を扱っていると言えるのだから、高次脳機能障害が得意でなければならないとも話されました。

今回、早川先生に高次脳機能障害について講義をお願いしたのは3回目となり、毎回多くの方々に好評を頂いています。今後この続きとなるような研修も学術部で企画していきたいと考えております。早川先生には厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

新戸塚病院 片岡直人





求人

作業療法士オープニングスタッフ募集

平成26年5月、川崎市に初めて認知症疾患専門病院をオープン致します。認知症専門病院として介護や福祉と連携し、早期復帰を目指した全国に誇れる新しい病院と一緒に創っていきませんか。

施設概要	病床数300床（全認知症専門病床） 認知症デイ・ケア
募集人員	常勤 5名（オープニングスタッフ）
給与	当院規定により優遇致します。 昇給年1回 賞与年2回
勤務時間	8:30~17:30 土曜 8:30~12:30 ※予定
休日	日・祝・土（午後）、1週40時間内 による 病院指定休、年末年始等
応募方法	電話連絡の上、履歴書（写真貼付）、免許証（写） を下記準備室まで郵送ください。
アクセス	東急田園都市線たまプラーザ駅、溝の口駅 小田急線柿生駅、新百合ヶ丘駅等からバス バス停より徒歩1分
担当者	※田園都市線あざみの駅より職員送迎バス予定 開設準備室事務長 国井弘善 〒216-0013 川崎市宮前区潮見台20-1 かわさき記念病院開設準備室 電話 044 (977) 8877 FAX 044 (977) 0505 E-Mail info@kqh.ne.jp

医療法人花咲会 かわさき記念病院
神奈川県川崎市宮前区潮見台20番1号

県士会メディア掲載のご案内 （求人情報 講習会・研修会）

一般社団法人神奈川県作業療法士会では、すべての会員の手に郵送される「県士会ニュース」とインターネット上で展開している「県士会サイト」の2つのメディアを運営しています。

「県士会ニュース」、「県士会サイト」とともに、会員や県民の方々へ有益な情報を発信するため、会員や関連職種、関連団体などからの記事掲載の依頼を受け付けております。

情報の発信をご検討している方は、下記アドレスをご覧ください。

一般社団法人神奈川県作業療法士会ウェブサイト（県士会メディア）

<http://kana-ot.jp/media.htm>

そして、発信したい情報の種類・対象・時期などから「県士会ニュース」向きか、「県士会サイト」向きか、それとも両方とも向いているか、ご判断いただき、それぞれの依頼方法を確認していただき掲載依頼を行って下さい。基本的には両方のメディアへ掲載をご検討下さい。



㊦ がんのリハビリテーションの基礎知識

主催：療法士.com 講師：高倉 保幸 先生

日時：10月6日(日)

場所：LMJ東京研修センター

㊦ 運動療法に必要な肩関節・股関節の機能解剖学

主催：療法士.com 講師：吉尾 雅春 先生

日時：2013年10月13日(日)

場所：町田市文化交流センター ホール

**㊦ 若手療法士のための動作分析と臨床推論 一歩
行 実技編 立脚後期の再構築にフォーカスして一**

主催：療法士.com 講師：石井 慎一郎 先生

日時：2013年10月14日(月・祝)

場所：町田市文化交流センター ホール

問い合わせ：mail:info@ryouhoussi.com

㊦ 作業療法地域連携会@sagamihara**～第11回研修会～**

主催：作業療法地域連携会@sagamihara

日時：平成25年11月15日(金) 19:00～21:00〔受付
18:30～〕

場所：北里大学医療衛生学部 A3号館33講義室

問い合わせ：さがみりハビリテーション病院 佐藤
連絡先：042-773-3211**㊦ お家に帰ろう～どうやってる退院前訪問～**

主催：川崎市南部地区リハビリテーション連絡会

日時：平成25年10月11日(金)

場所：川崎幸病院5F講義室1,2

申込・問い合わせ：knanbureha@yahoo.co.jp

㊦ 発達障がい児に対する作業療法・実践編

主催：横浜感覚運動研究会

日時：日程：2014年2月1・2日(土・日)

時間：9:30～16:30

場所：横浜市総合リハビリテーションセンター

問い合わせ：matsumoto.m@yokohama-rf.jp

横浜市総合リハビリテーションセンター 松本政悦

**㊦ 「発達が気になる子への生活動作・運動の教え方」
～不器用さに対する具体的な支援方法～**主催：公益社団法人東京都理学療法士協会 小児福
祉部

日時：平成25年11月9日(土)

場所：東京都立北療育医療センター 大訓練室

申込み方法：FAX 送信先 島田療育センターはち
おうじ リハビリテーション科 理学療法士 黒川 宛
FAX 042-634-8513**㊦ 第14回北里作業療法学会 学術集会**

主催：北里作業療法学会

日時：平成25年12月7日(土)

場所：北里大学医療衛生学部 A3号館 33教室

問い合わせ：北里作業療法学会事務局

担当：平田樹伸 Email: kitasato.ot@gmail.com

**㊦ 地域における高次脳機能障害者への作業療法士
の支援**

主催：昭和作業療法卒後教育セミナー

日時：開催日：平成25年12月8日(日)

開催時間：13:00～16:00

場所：昭和大学保健医療学部(横浜キャンパス)

問い合わせ：昭和作業療法卒後教育セミナー事務局
<E-mail: otd@nr.showa-u.ac.jp>**㊦ 第39回日本リハビリテーション工学協会 車い
すSIG講習会**

日程：平成26年1月12日(日)～13日(祝・月)

主催：日本リハビリテーション工学協会 車いすS
IG

共催：一般社団法人日本車いすシーティング協会

会場：山梨県立図書館(かいぶらり)

<http://www.lib-yamanashi.jp/>

問い合わせ：車いすSIG講習会事務局

<http://www.wheelchair-sig.jp> (担当：深野栄子)

新入会員オリエンテーション&歓迎会 報告

去る9月28日16:30~18:00にて、横浜リハビリテーション専門学校地下談話室にて開催しました。参加者は新入会員16名、現職者会員5名の合計21名、教育部員3名、横浜リハビリテーション専門学校教員（石井先生）1名にも参加して頂きました。理事の方は錠内副会長、清宮監事、奥原理事、作田理事、沼田理事、内山理事、澤口事務局長、鈴木孝治理事に参加して頂きました。

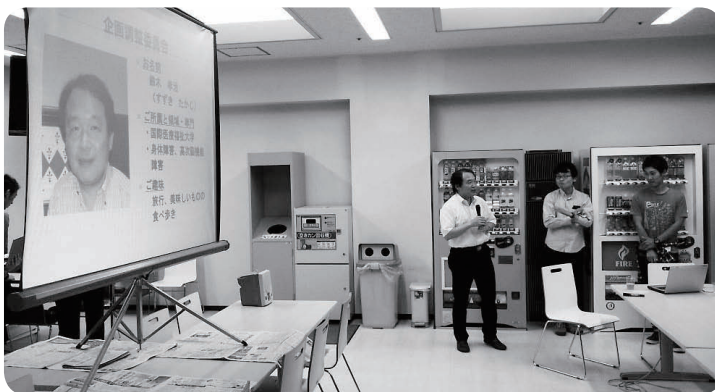
初めに錠内副会長より開会の挨拶をして頂いた後、飲み物・お菓子等を準備し、立食形式でご歓談して頂きました。理事や役員、会員の皆様が交流し、情報交換や親睦を深めていました。

企画として当部員より各理事の紹介をpower pointにて行いました。理事の紹介では当日いらっしゃっている先生方より一言頂きながら進行し、笑いに包まれながらアットホームに進行する事ができ参加者・理事からも好評でした。

閉会の挨拶は清宮監事より頂きました（若い世代のOTへの熱いメッセージをありがとうございました!）。

ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。これからも神奈川県作業療法士会を盛り上げていきましょう! 来年も同企画を開催しますのでぜひご参加ください☆

福利部 一同



臨時総会 報告

平成25年10月5日（日）午後16時より、横浜YMCA学院専門学校にて、第1回臨時総会が開催されました。

事務局長司会進行役が開会の辞の後、議長、副議長、議事運営員、書記、議事録署名人を総会出席者より選任、渡邊会長挨拶のあと、議事運営員より、総会成立宣言（議決権のある正会員総数：1,849名、委任状数1,148名、出席正会員数33名でこの議決権の総数：1,181名で正会員数の3分の1以上の出席）及び議事運営案の提案があり、賛成多数で可決、審議に入りました。委任状の提出をはじめ、会員の皆様には審議のご協力ありがとうございました。

第1号議案 一般社団法人神奈川県作業療法士会定款の改訂案について

第2号議案 代議員選挙規定（案）の新設について
審議は第1号、第2号議案に関して行われました。

第1号議案に関しては、定款の変更には、定足数、正会員総数が3/4以上である1,387名の議決権を満しておらず、定款変更を議決する総会として成立していないことが報告されました。これを受け、議長より臨時理事会の開催が提案され、15分の休会後に再開となりました。理事会より追加の第3号議案として、次回臨時総会を11月14日に開催し、今回採決できなかった第1号議案のみ内容は変更せず審議し、今回の委任状の有効期限を次回臨時総会まで延長する案を提案されました。再度審議となり、第1号は廃案、第2号、第3号議案は承認されました。

た。

今回の臨時総会では、代議員制度の導入、会員の資格喪失と再入会や役員選挙についての定款の改訂が大きなポイントでした。会員数の増加により、組織としての意思決定の過程において、意見集約等で非常に効率が悪くなっている現状があります。その結果、正会員の3/4以上の同意が得られなかったことは、非常に残念なことです。

私たち専門職は、その専門性をいかした地域、社会貢献を行っていくことが役割の一つになります。地域、社会を支えるため、当事者や行政などとパートナーシップをとっていくには、「組織」という集団は大きな力となります。改めて、会員ひとりひとりが、神奈川県作業療法士会という組織の在り方について考えていく必要があると感じました。

（文責 大郷和成）

総会役員	議長	名古屋 和茂
	副議長	芳賀 吉朗
	書記	南條 玲子、渡邊 郁美
議事運営委員	中井 琢哉、山岡 洸	
議事録署名人	西尾 香苗、椎名 早香	



編集後記

秋も中旬に入り関東周辺は紅葉も見ごろになってきていますね。私事ですが、先日京都へ旅行に行ってきましたが、紅葉が大変綺麗でした！秋といえば、食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋等々ありますが、皆さんはどのようにお過ごしですか？私はもっぱら食に走っています。さて11月も半ばに入り今年も残すところ約1か月である。皆さんの今年・今年度の目標の達成度はどうでしょうか？自分自身にも問いかけ・・・残り1か月ただ月日を過ごさず目標を見失わずに過ごしていきたい。

Yamato

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース < 164号 > 2013年11月発行（年6回発行）

発行責任者 渡邊愼一

編集責任者 出口弦舞

編集担当 小峰一宏／山岡洸／岩瀬このみ／桜井大和（佐藤病院）

印刷 発送 第一資料印刷株式会社

事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町4-45 第一国際ビル301号 TEL/FAX：045-663-5997
月火水木金 10：00～16：00 メールアドレス：jim@kana-ot.jp



kana-ot.jp

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト <http://kana-ot.jp>

作業療法 神奈川

検索